



題字 井口 文章  
再刊 第450号  
印刷・発行  
錦城高等学校新聞委員会  
編集室 2024

みんなでつくる  
錦城高校新聞

一面：61回生の横浜校外学習レポート  
二面：4月に活躍した部活特集  
新任の先生インタビュー第2弾！  
60回生は「アラジン」を観劇！

# 横浜の文化と歴史に触れる 61回生が校外学習に行ってきました！

5月2日(木)、61回生の校外学習が横浜にて開催された。各グループがそれぞれ自分たちで行き先を決め、横浜中華街やカッパヌードルミュージアムなど、様々な場所を訪れた。新しい友達との仲を深めるだけでなく、多くの発見や学びを得ることができた。

## 横浜中華街

小籠包やタピオカミルクティーなどの店が立ち並び、賑やかな中華街。頭上をかすめる鳩に驚く客や混雑した道をゆっくりに進む車など、昼前に訪れても賑わいがうかがえた。食べ歩きのお客さんたちや、すれ違った友達に手を振る学生も多かったようだ。



大きな存在感を放つ中華街朝陽門

実際に、多くの女性客が楽しんでたフルーツ飴を購入した。また、6個入りの生煎包(焼き小籠包)を食べると、もちもちとした皮と熱々の肉汁がたまらない。思わず口の中を火傷して「アチッ！」と叫ぶ声もしばしば聞こえた。

# 煌びやかな「アラジン」の世界へ 60回生 劇団四季を観劇

5月2日(木)、60回生が電通四季劇場(海)で行われた『アラジン』の公演を観賞した。2015年に日本で初めて上演された『アラジン』。砂漠に囲まれた都アグラバールで、登場人物たちが望む自分になるために奮闘する姿を描いた、笑いあり、感動ありのミュージカル作品だ。



劇場入口の垂れ幕

主人公はアグラバールの下町に暮らす貧しい青年のアラジン。3人の仲間と盗みを繰り返しているが、亡くなった母を思い、真の当人人間になることを目指している。彼はある日、王宮から逃げた王子ジャスミンと出会い、2人は恋に落ちる。ランプの魔人ジーニーの力を借りてジャスミンと結ばれたいという願いを叶えようとするが、その最中にアグラバールを乗っ取るようとするジャファールにランプを奪われてしまう。アラジンは危機に陥った王国を救うために立ち向かっていく。物語の見どころの一つは、魔法の洞窟でジーニーがアラジンに自身の力を見せる場面。挿入歌「フレンド・ライク・ミー」に合わせて、華麗なダンスやマジック、花火を用いた大迫力の演出に、会場からは大きな拍手が送られた。

# 生物部にヒメウズラがやってきた！

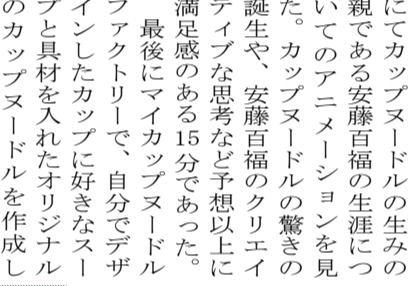


手にしているヒメウズラはこのサイズで成体だそう！見てみたい方、触ってみたい方は放課後、バスケットコートで活動している生物部の方に声をかけてみてください。



展示されているカップラーメンのオブジェ

パシフィック横浜から少し歩いたところに、四角い建物のカッパヌードルミュージアムがある。ゲートを通った先、最初にあるのは、年代別にインスタント麺が展示されている。ただ、その一方で食べ終わった容器や串の捨て場がわからず困惑したり、手がベタベタして悩む生徒もいたようだ。来年度以降は念のため、手提げのゴミ袋やお手拭きを持って行くのが良いだろう。



ランドマークタワーからの絶景

は壮大な景色が広がっており、訪れた錦城生たちは皆、圧倒された。赤レンガ倉庫や山下公園といった横浜の街並みから新宿や渋谷に広がる高層ビル群まで見下ろすことができ、遠くには東京スカイツリーも目視で確認することができた。

横浜ランドマークタワー  
みなとみらい駅から徒歩およそ5分、今や横浜のシンボルともいえる横浜ランドマークタワー。高さ296mはこの辺りでは群を抜いて高く、視界を遮るものが何もないため、周囲の景色を一望することができる。最高時速45kmを誇る日本最速のエレベーターに乗り、69階にある展望フロアまで一気に駆け上がると、そこに

# 「生徒が通いやすく、快適に生活できるように」

4月30日(火)、今年度最初の代議委員会が開かれた。始めに委員長から活動の説明があり、過去にあった例などを交えながら注意点が説明された。昨年度の代議委員会は、様々な審議を経て生徒会則の見直しや、ポロシャツの導入などを進めた。今年度は、昨年からよせられていた生徒からの要望を、継続して検討するそうだ。今回はスライド資料でそれらの要望が共有され、数グループに分かれて、メリット・デメリットや議案とするかの検討が行われた。代議委員長の志村優さん(3L)に聞くと、今年度力を入れたことについて「第一は生徒が通いやすく、快適に生活できるようにしていきたいです」と意気込んだ。代議委員会からアンケートをたくさん配信すると思うので、クラスルームをよく確認してほしいです、と志村さんは生徒へ呼びかけた。(仏)

教室の椅子の改善
自習室でのイヤホンの使用
セーターの男女共用化または自由化
部活棟2階、駐輪場までに屋根の設置
制服併用期間の延長、廃止
冬季プレザー着用自由
電子ポット・電子レンジの設置
髪留め(ヘアクリップ等)の使用についての自由化または規則の緩和
校庭を人工芝化
女子ニットの自由化
化粧の規制についての自由化または規制緩和
放課後の多目的コートの使用可
先生に意見を言える場を増やしてほしい

「昨年度代議委員会にあげられた要望」

# 60回生 大学説明会開催 国内外の61校が新入試制度など語る

5月8日(水)、60回生に向けた大学説明会が行われた。今回の大学説明会では、テンプレ大学ジャパンキャンパスや早稲田大学など61校もの大学が説明を行ってくれた。内容は大学によって様々だったが、各大学の学部やキャンパス、そして2025年度から学習指導要領の改訂によって変わる各大学の入試の対応について教えてくれた。60回生はもらった大学のパンフレットを見たり、メモを取ったりしながら熱心に聞いている様子だった。今号では、多くの大学の中から東京都立大学と明治大学を紹介する。

東京都立大学には、7学部23学科がある。学科内でも様々なコースに分かれており、より自分が学びたいことを専門的に学ぶことができる。また、副専攻コースというものがあり、主専攻以外の専門分野を学ぶことができる。副専攻コースは4つで、2024年度まで国際副専攻コースは一定の基準を満たさないと出願できなかったが、2025年度からその基準がなくなったそうだ。東京都立大学は都内に3つのキャンパスがある。学生が主に使う南大沢キャンパス、システムデザイン学部の学生が主に3~4年次に使用する日野キャンパス、健康福祉学部の学生が2~4年次に使用する荒川キャンパスの3つだ。3つのキャンパスを使用することによって、最新のCTやMRIなどを用いて授業を行っている。



真剣に説明を聞く様子

明治大学は日本有数の伝統校、総合大学として10学部28学科が設置されている。約30講座の全学部共通総合講座や他学部履修制度もあり、分野の垣根を越えて視野を広げることができる。少人数授業にも力を入れていて、各分野の第一線で活躍している企業の方を招き、課題解決型の授業でディスカッションを行い、コミュニケーション能力の向上を図っているそうだ。就職に力を入れている大学ランキング14年連続1位に輝いている明治大学では、資格、内定獲得の対策講座も開かれているようで手厚いサポートを受けられることが魅力だと語られた。(紫・白)

# むらさき草

新学期になって約一か月。部活動や委員会では新体制への移行が始まり、2年生としての自覚が求められることが増えてきた。2年生は、学校の軸となる中堅学年。受験勉強に専念する3年生から引き継ぎ、これからは自分たちが学校を引っ張っていかなくてはならない。失敗を恐れない、不安やプレッシャーは大きい。偉人達も、若いころには数多くの失敗をしてきた。「坊っちゃん」で知られる夏目漱石は、留学先のイギリスで自信のあった英語が全く通じず、下宿に引きこもるようになったという。しかし漱石はそれを利用し、人との接触を断り現地の本を読みふけり「根本的に文学とは何か」を研究した。帰国後には、引きこもり生活で得た独自の視点を軸に、多くの作品を発表することになる。失敗は悪いことじゃない。小さな時から幾度となくそう言われてきたけれど、それでも怖いものは怖い。力も知識も不十分な高校生が自信のなさ故に失敗を怖がるのは不思議なことではないし、若かりし頃の偉人達も私たちと同じように怖かったのではないと思う。「おれたちがいまおとなだつたら、もつともうまいことやれたのかな(いとうみく)」「真実の口」より。最近読んだ本の中で、高校生の主人公が口にした言葉だ。大人のようにうまくできなくて、自分の拙さに落ち込むことも多い。しかし、そうやって自分の間違いを直していかないと、暗くなったところを又暗い方へと踏み出していって、遠くから世界が闇になって、自分の眼で自分の身体が見えなくなるだろう。漱石の長編小説「坊っちゃん」の一節だ。留学中の引きこもり経験があったからその言葉なのだろう。▼かつての漱石のように、勢い任せの若者にしかできないことはきつとある。怖がりながらもたくさんの失敗と挑戦を経験して、人生の糧にしていきたい。(瑞)



# さらなる高みを目指して挑戦を続ける

## 陸上部、空手道部 春季大会で躍動

各部活では新入部員を迎え、続々と活動がスタートしている。今号では、4月に行われた春季大会において特に輝かしい成績をあげた陸上部と空手道部のメンバーに大会を振り返ってもらい、今後に向けての意気込みを語ってもらった。

### 文武両道を実現させたい

4月20日(土)、21日(日)に上柚木陸上競技場にて、東京都高等学校陸上競技対校選手権大会支部予選会が行われた。男子1000m7位、200m3位、須加湧太さん(3I)、梅澤涼太さん(3J)がそれぞれ入賞した。



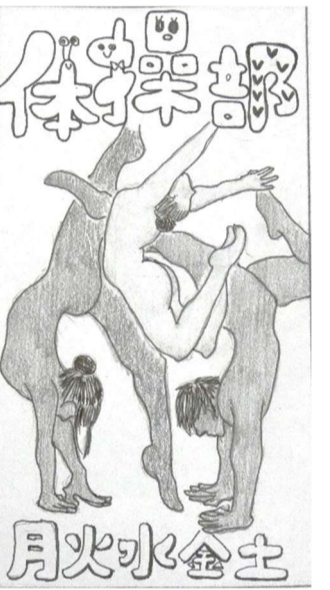
今回も多くの入賞者を輩出した陸上部の活躍に今後も目が離せない  
提供：陸上部

今回、陸上競技部の部長である男子1000m、男子2000mで入賞した須加湧太さんに話を伺った。「1000mでは目標にしていたタイムに近い記録が出せた一方、2000mでは自己ベストを更新できず悔しかったです」と大会の感想を語った。

この大会に向け、家でのトレーニングや課題点であったピッチの向上に励んでいたという。部長をやりながら自分の競技にも集中し、勉強もしていかなければならなかったことが特に大変だったそうだ。大会ではピッチ(足の回転の速さ)や前傾姿勢に強い意識を持っていったという。速報タイムが10秒台だったのを見たときは、努力が報われた気がしたということに特に印象に残ったそうだ。

今後については、「受験勉強をしながらですが、今持っている自己ベストのタイムを0.01秒でも更新する事が今の目標です。文武両道が実現できるように頑張ります!」と語った。

また、5月11、12、18、19日に実施される高校総体都大会に、男子5000m競歩で木崎陽翔さん(3E)、岡本寛太さん(2A)、女子5000mで早川愛花さん、川名凜さん(2D)の出場が決定した。川名さんは大会前日に「初めての都大会なので頑張ります」と意気込んだ。



空手道部は4月29日(日)、東京都春季大会兼関東大会予選に男女個人形・団体形出場し、女子個人形で小林奈央海さん(3A)がベスト8に入り、女子団体形で小林さん、小川紗菜恵さん(3E)、齋藤かなでさん(3I)、坂本真弓さん(3H)が3位入賞を果たした。また、この結果、女子団体形で6月に行われる関東大会への出場が決定した。

女子個人形に出場した小林さんは今回の結果について「やってきたことが間違っていなかった」と嬉しさを語った。大会前には、手足におもりを付けて身体に負荷を掛けながらいつも通りのハローを出すという練習を行っていたそうだ。また、学校にある空手道場にいる時も本番の広い会場を意識したと小林さんは語る。大会では、他の選手との間に意識や技の差を感じた振り返る小林さん。今後については「ベスト4など、もっと高いところへ行けるよう頑張りたいです」と目標を教えてくれた。

## 英検がリニューアルを実施

英検では、2024年度より3級以上の級で一部新たな形式の出題を加えたりリニューアルが行われた。特に、2級以上では与えられた英文を読んでその内容を指定語数で要約するという問題が追加された。今回の変更を受けて英検担当の福江幸喜先生に話を伺った。要約問題が追加されたことについて福江先生は「日本語でも難しい要約を英語でやらないといけないというこ



「準1級にチャレンジできるように頑張る!」

とで、格段と難易度は上がったと思います」と分析する。対策法について聞くと、要約は国語力が必要であると前置きした上で、「普段から日本語、英語関係なく長い文章を自分の言葉でまとめてみることは有効な対策になると思います」と語った。福江先生は、英検の重要性について、入試での恩恵と英語学習へのモチベーションとして機能するとい

先生によると、実際の大学入試では英検のスコアによって加点してくれる大学があったり、推薦入試の受験資格として英検のスコアを設定している大学もあるそうだ。錦城生に向けて福江先生は3年生になったら準1級にチャレンジできるような頑張るほしいと話し、「3年生で準1級の目標を達成するためにまずは2年生までに2級をクリアできる英語力を身につけてほしいと思います」とメッセージを送った。

先生は今回の結果について「やってきたことが間違っていなかった」と嬉しさを語った。大会前には、手足におもりを付けて身体に負荷を掛けながらいつも通りのハローを出すという練習を行っていたそうだ。また、学校にある空手道場にいる時も本番の広い会場を意識したと小林さんは語る。大会では、他の選手との間に意識や技の差を感じた振り返る小林さん。今後については「ベスト4など、もっと高いところへ行けるよう頑張りたいです」と目標を教えてくれた。

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

## どうなる! 今年の野菜販売

5月1日(水)の6限目、第一体育館にて全学年での探究オリエンテーションが行われた。探究活動部主任の奥嶋先生と3年生探究担当の西塚先生から探究活動についてのお話があり、実際に2年間活動を行ってきた3年生の探究活動班「び〜ず」のメンバーがこれまでの取り組みを全校生徒に向けて発表した。メンバーは1年次の活動内で実際にいったプレゼンテーションを用いながら、この企画を考えたいきっかけや錦城祭での販売に至った経緯などを説明した。実際の販売にあたっての苦労も多かったというが、それぞれの得意分野を生かしながら工夫を凝らし、錦城祭2日間で来場者400人、売り上げは約8万円。「協力して、チームワークを発揮することの大切さを再確認しました」と振り返った。発表の最後には有志メンバーの募集が呼びかけられ、これを受けて5月9日(木)に新メンバーの集まりがあった。新メンバーは昨年と同様「小平市を野菜で活性化しよう」というコンセプトで活動し、加工はせずに販売の形式をとるということを決めた。(瑞)

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

## 新任 第2弾

保健担当の江谷拓起先生は学生時代から10年間、陸上競技を続けていたそう。教師になったのも部活でお世話になった顧問の先生がきっかけだったという。江谷先生は錦城生の印象について「自分の学生の時よりも視野が広く、海外に向けている人が多いと思います」と語る。そんな錦城生に向けて

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

## 書道

阿部ゆう先生 書道の先生になった理由について、高校時代の書道の先生の影響が大きいと話すと阿部先生。「書道は黙々とするイメージがあったけれど、おじいちゃん先生の話が面白くて印象が変わりました」という。高校時代、阿部先生は書道部に所属していたそう。書道部は合宿やパフォーマンス

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

## 卒論

小島恭子先生 卒論担当の小島恭子先生は大学生の時、塾で生徒に国語

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

## 軽音楽部 新歓ライブ開催!

4月27日土曜日の2時30分からホールで軽音楽部が新入生歓迎ライブを開催した。6時を超えるまで4時間弱ほど通して25のバンドが演奏を披露した。1組目は生徒が作曲したと

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!

## 軽音楽部 新歓ライブ開催!

4月27日土曜日の2時30分からホールで軽音楽部が新入生歓迎ライブを開催した。6時を超えるまで4時間弱ほど通して25のバンドが演奏を披露した。1組目は生徒が作曲したと

今年、紹介しきれなかった部活動については次号以降、順次ご紹介していく予定です。お楽しみに!